



令和3年10月16日 雨上がりのブナ林広場

～はじめに～

山形県立自然博物館は、月山のブナの原生林をはじめとする貴重な自然に触れながら、「生物多様性」や「自然と人間のかかわり合い」等について学ぶ施設として、西川町志津地区に平成3年6月に開園し、今年度は30周年を迎えた節目の年となりました。

新型コロナウイルス感染症が収束しないなかでしたが、万全の感染予防対策を図りながら、30周年記念スペシャル事業の開催、昨年度に引き続き、幼稚園・保育園児、小学生等を対象とした自然体験学習促進事業の実施などにより、様々な人に来園していただくことができました。

さて、私たちの暮らしは、水や食料、木材、気候の安定など、多様な生物が関わり合う生態系から得ることのできる恵みによって支えられています。この恵みは、生物多様性という、生き物たちの豊かな個性のつながりにより得られる恩恵の一つです。

当園は、様々な動植物が生息・生育し、月山の豊かな湧き水が溢れ、まさに生物多様性を学ぶための施設といえます。今後とも、多くの方の来園をお待ちしております。(山形県環境エネルギー部みどり自然課)



山形県山岳情報ポータルサイト「やまがた山」

<http://yamagatayama.com/>

Instagram <https://www.instagram.com/yamagatayama/>

facebook

「よりどりみどり山形」

<https://www.facebook.com/yamagata.midori/>

目次

CONTENTS

はじめに	・	・	・	・	・	・	・	・	・	P1	30周年記念 SP 企画あなたの夢叶えます	・	・	P5
令和3年度利用状況	・	・	・	・	・	・	・	・	・	P2	特別事業	・	・	P6
令和3年度 自然博物館トピックス	・	・	・	・	・	・	・	・	・	P3	自然博物館開園30周年に寄せて	・	・	P7
開園30周年記念トレッキング	・	・	・	・	・	・	・	・	・	P4	山形県の生物多様性情報	・	・	P8



自然博物館は平成3年6月にオープンして今年で開園30周年を迎えました。園内のブナの平均寿命が250年程と言われている中で、開園したあたりのブナ実生は30歳の幼木になります。このブナが老木になるまでこれから先の200年は、気候変動がもたらす自然環境はどのように変化するのでしょうか。私たちも注視しなくてはならないことです。世界は今、国連加盟国が採択した持続可能な開発目標（SDGs）に向かって動いています。安定したブナの森は多様性豊かな森林生態系を織り成して生命力が溢れています。何億何千年もの時を経て進化してきた植物に生き方を学び、人類の知恵を出し未来に残す大切なものを見失うことのないように、このブナたちと成長していかなくてはならないと思います。

そのブナはゆっくり成長して30年後初花を咲かせます。 （自然博物館 真鍋雅彦）

令和3年度自然博物館利用状況

（単位：人）

		5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
個人利用	一般	854	468	549	553	688	1,049	4,161
	高校生	1	0	1	6	5	2	15
	中学生	5	1	6	3	21	6	42
	小学生以下	77	41	89	91	85	65	448
	小計	937	510	645	653	799	1,122	4,666
団体利用	一般	263	167	262	56	150	403	1,301
	高校生	15	30	0	52	0	0	97
	中学生	45	0	196	0	0	6	247
	小学生以下	118	567	358	165	287	514	2,009
	小計	441	764	816	273	437	923	3,654
団体数		13	24	25	9	15	36	122
合計		1,378	1,274	1,461	926	1,236	2,045	8,320

※利用者は、ネイチャーセンターで把握できた来園者の人数です。

令和3年度 自然博物館トピックス

新型コロナウイルス感染症の収束は未だ見えず、次々と現れる変異株に気を緩めることができませんでしたが、ご利用いただいた方々とは感染予防対策を万全にしてブナの森に出かけ、日常の閉塞感から抜け出し、ほっと息抜きをしたりアクティブに体験することで身体も心もフレッシュになっていただけました。

今シーズンのNo.1トピックは開園30周年事業ですが、P4~5に活動報告があるので、ここではそれ以外のトピックを画像で紹介します。

今年とはブナとコバルトブルーのサワフタギの実が豊作

新職員は“へびつかい”へびとの触れ合いが多い年でした

綺麗でした！



特に子どもには大人気

数年に一度の森の恵み

宝石の様な実です

へびつかい

トチノサウルスはさらに人気スポットに！

貴石の宝庫

滑り止め完了。安全に歩けます

急激な増水で流された橋

新スポット！

めっちゃ、水晶じゃん！

◎保全クラブ有志が職場体験の地元中学生と一緒に、滑り止めの横木を設置してくれました。
◎石跳川に架かる橋が集中豪雨による増水で流失することが多くなりました。昨今の気候変動が引き起こす重大インシデントです。

New ツキヨタケ鑑賞スポット
現る！来年はここまで、ナイトハイクができそうです。

自然観察会”貴石探し”は大興奮！
子どもが登る斜面には大小の貴石がちらっばっています。下の大人がちゃっかり宝物をゲット！

自然博物館開園30周年記念トレッキング in 皮松谷地



通常の案内では行くことができないです。広大なブナ林の中にとともにリュウキンカやミズバで、新緑のブナ林に囲まれて開放感のある場所です。晴湯殿山や姥ヶ岳の山々を綺

開園30周年を迎えた自然博物館の記念トレッキングを開催しました。向かった場所は、自然博物館のエリアと隣り合わせになっている園外で、



きない湯殿山麓にある皮松谷広々とした湿地があり、雪解けショウが咲き誇るお花の楽園。残雪とのコントラストが綺麗な天であれば空も大きく広がり、麗に見渡すことができます。



但し、登山道がないので積雪期にしか行くことができない特別な場所です。一度その風景を見ればまた来てみたいと思う場所に間違いのないところで、今回参加された皆さんも、30周年記念の思い出として脳裏に色濃く焼き付けたことと思います。皆さんには記念品として30周年記念オリジナルスタンプ押印のエコバックとコルクコースターを持ち帰っていただきました。(令和3年5月22日 参加者34名/広報表紙ドローン画像もご覧ください)



玄海古道トレッキング

東日本大震災から10年目11回開催



玄海古道は湯殿山神社への参詣道として、古から多くの人々が歩いた信仰の道です。それ故に精神が宿る道であり、また祈りの道でもあります。志津村はこの道を往来する人々を護衛するための口留番所が設置された1,611年に開村しました。それから400年が経った2,011年に未曾有の大震災が起きて、多くの人々が復興を願う年になりました。これを機に志津400年祭事業



と自然博物館開園20周年事業に合わせて、東日本大震災復興祈願湯殿玄海古道登拝を企画することになり、志津温泉歴史広場には、その記念碑が建立されて100人規模で実施することができました。それから10年毎年開催して今回で11回目になり、11回続けて参加されている方もいます。志津温泉から湯殿までの約7kmには、心に残る風景があり、風化してはならない思いを込めながら毎年歩いています。(自然博物館真鍋雅彦)

30周年記念スペシャル企画 あなたの夢叶えます

開園 30 周年記念スペシャル「あなたの夢叶えます」は、自然博物館を利用して実現したい夢（事）を、個人及びグループから募って、私たちスタッフが毎月一組の夢を叶える 30SP プランです。どんな夢の申し込みがあるのか私たちもワクワクドキドキで待っていました。実施した五つの夢プランを紹介します。



夜寝ているイワナ



帳が落ちるネイチャーセンター

2号夢プランは個人の申し込みで、午前はブックカフェを、午後にはブナの森で絵本の朗読会をして、夜はブナの森 24 時体験をしたいと 1 日フルコースの夢をいただきました。参加者を募りましたが、コロナ感染拡大のためカフェは中止にして、また、にわか雨が降り出して、手作りの野外図書館は急遽ネイチャーセンター内に移動することになってしまい、ブナの森 24 時体験も叶いませんでした。全ての夢は叶わずともたくさんの絵本を手にしなが、素敵な時間を参加者と共有することができました。

1号夢プランは、友人 3 人とネイチャーセンターに泊まり、誰もいない早朝のブナの森をトレッキングして、ゆっくり自然博物館を満喫したいということです。普通泊まれないネイチャーセンターですが、研修室を利用いただき、ナイトハイクオプションで、普段見られないヒメボタルや夜行性の生き物を観察して、夕刻から翌日まで滞在時間を有効に使い楽しんでいただけました。



サブライズランタン



玄海広場でテント泊



野外図書館は気持ちよい空間でした
NC でゆっくり絵本を手にして、室内で朗読会

3号夢プランは、ナイトハイクでツキヨタケを見に行き星空の下玄海広場に泊まりたい 4 人組と、ネイチャーセンター泊希望の 2 人組の夢が揃い同時開催になりました。残念ながら夜は曇天で星は見え、ツキヨタケも時期が合わず見ることはできませんでしたが、ナイトハイクでは隣にいる人も見えないくらいの闇夜に驚き、それぞれの場所でそれぞれの夜を過ごしていただけました。

4号夢プランは、大学生から卒業で離れてしまう仲間と、ブナの森でティーパーティーを開きたいという夢プランです。玄海広場に秋の装いたっぷりのテーブルに、紅茶と手作りスコーンと秋の実りでおもてなしをしました。束の間友と語り合い、満足の笑顔で思い出を持ち帰ってもらいました。



小春日和のティーパーティー
玄海広場散策も気持ち良かった



皆で食事を作り、ホールに寝て、一泊二日の大人の修学旅行でした



紅葉のブナ林広場で合唱会

5号夢プランは、グループでネイチャーセンター泊希望で、秋の星空と植物を観察してブナの森で合唱するという夢プランです。曇り空で星空観察は叶わずでしたが、翌日の 10 月 31 日は穏やかにゆっくり観察会をして、ブナの森に響き渡る歌声は楽しい森の合唱会になりました。

子どもたちの自然体験学習促進事業



感染予防のため
離れて食事をしている

令和3年も新型コロナウイルス感染症は収束せず、観光事業が低迷したことから、昨年に引き続き子どもたちの自然体験学習促進事業が、昨年の半分の規模で実施されました。当事業で利用者数が増えることはもとより、昨年実施した団体の7割が初来園で好評な事業だっただけに、私たち以上に利用者にとって待ちに待った事業再開だったと思います。

自然と触れ合う子どもたちの笑い声がブナの森に響き、子ども



森での遊びは発想力と創造力を養います

たちが一喜一憂する姿を見ながら一緒に体験できることが、私たちにはなんと言っても嬉しいことでした。

今年度の当事業は8月11日から10月30日の期間中に団体数30件、利用者総数981人の利用があり、初来園の団体は2件でした。感染者が出ることなく、今年度も当然ながら、全員の笑顔を見送ることができた有益な事業になりました。

玄海広場再生事業



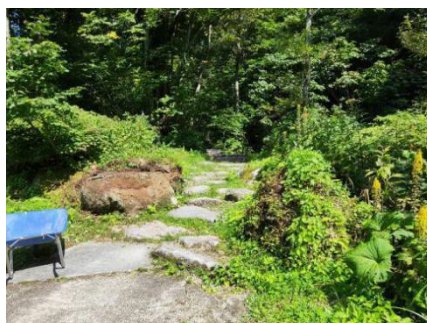
玄海広場 参籠所の礎石

玄海広場にはかつて祈禱所と参籠所があり、出羽三山信仰の拠点になっていましたが、しばらく無人になっていた小屋は昭和56年に壊されて、その後自然博物館が設置されて、広場には参籠所の礎石と石碑群だけが残し、ネイチャーセンターが建ち、芝生や舗装の小路が巡り、石跳川から冷水を引いた親水広場があり、置き石も多く一休みしてくつろげる場所が随所に造られました。周りはサワグルミの巨木が包み込むように立ち並び、車から降りたその場でダイナミックな自然に驚きます。しかし、気がつけば30年が過ぎた広場の景観は、伸び放題の樹木と落ち葉等の堆積物や、日向を好むツル性植物と草本

類がはびこっていて、本来の機能が果たせない場所になっていたのが現実でした。そこで、訪れた方どなたにもほっとできるような広場で、安心して自由に歩いていただける小路を再生しようと、その除去を始めました。自然に抗わずそのままにしておくのも一案ではありますが、人工的に造られたところは元に戻して親しみが持てる場所に、そこに見られる多様性は大事にして、持続的な管理で玄海広場を守っていきたいと考えます。

スーパーボランティアの活動により再生が進む玄海小路

堆積物を除去した小路に敷石が現れ、ツル性植物と草を抜き取りスッキリした



Before



After



私の宝物

私が博物館を初めて訪れたのは大学卒業後間もない頃、他の市町村のイベントに同行してというのがきっかけだったが、なんだかとても居心地がよくて、個人的にも通うようになり、あれから25年になる。何といっても人との出会いが私の宝物だ。森の中に身を置くのももちろん落ち着くのだが、当時の職員さんはじめボランティアスタッフすべての人が自然に受け入れてくれるのが、それまで内向的だった自分を変えてくれた。スタッフ、関係者、県内外からの来園者、性別、年齢を超えて自然が好きという気持ちが繋げてくれる縁は、これまでもこれからも私の糧になるだろう。

そして、これからも自然博物館の一番のファンであり続けたい。(NS：倉本かおり)

逃がしたトンボは大きい？

一般案内でのこと、ブナの幹にベタッと止まっている大型のトンボを見つけ、カメラ好きのお客さんが先に撮影した。初めて見る種で、アドレナリンも上がり慎重に撮ろうとした寸前に逃げられた。ガイドらしく平静を装ったものの「あれは何ヤンマ？」がずっと頭によぎり、「あの画像見せてください」が言えないまま案内は終わった。

逃がした魚は大きいならぬ、逃げたトンボは大きいわけだが、夏の終わり頃湿地の植物周辺を歩いていると、またあのヤンマに出合えるかもしれない。来年も博物館にせっせと通うことになるだろう。(VS：星大輔)

ブナの森の同期生

ブナの森に通い始めて11年。四季折々の大自然の中に入ると五感が刺激され元気になります。特に多種多様な生物との出会いは驚きと感動の連続でした！人間は他の生物と違う特別な存在だと思っていた私。しかし、生物に優劣はなく互いに深く関わり合っている仲間なのです。とても大切なことにブナの森は気づかせてくれました。

ここで出会う生物は、同じ時代を生きる同期生。だから森を歩けばわくわくし何度足を運んでも飽きないのかもしれない。(VS：竹田真由美)

繋ぐ場所

博物館30周年という節目の年にスタッフとして関わることができたのはとても貴重な体験でした。30周年の記念イベントの“あなたの夢叶えます”企画では、こちらまで楽しく過ごさせてもらいました。博物館は学びの施設ですが、私にとっては、色んな人たちと交流することができる大切な場所でもあります。自然から学ぶことは本当に多いですが、博物館に来てくださる人たちや携わっている人たちから学ぶこともとても多いのです。

きっと私だけでなく、色んな人にとって博物館は自然と人、人と人とを繋いでくれる場所なのだと思います。この先、私自身もたくさんの人に博物館を繋げていきたいと思いました。(NS：近田郁子)

忘れぬ青春の思い出

ネイチャーセンターが開設した頃初春四月、清水屋旅館とセンター共催の湯殿山カンジキツアー登山に参加しました。雪の六十里越街道を、腰まである雪を先頭を変えラッセルして進み、自分のカンジキをひっかけて何度も転びながら、山頂を目指しました。頂上で昼に食べた清水屋の信さんが熊汁で煮たラーメンが一番の御馳走で、庄内平野を眺めながら喉を潤したことも忘れられません。降りる尻滑りやカンジキ競争などは最高でした。

現在は70歳を過ぎ体力も脚力も落ちましたが、頭の中では青春の思い出が一杯です。(VS：阿部久照)

森の[楽校]とともに

私が月山のとりこになったのは、6月の残雪の中、雨に煙るブナ林を訪れた時からです。自然博物館の自然と、そこに居る濃いキャラクターの人々との繋がりがこんなに深くなるとは思いませんでした。ヤドリギ、サンショウウオ、木々のざわめきなどにはまり、親子クラブに参加しました。月山登山やナイトハイクなど、親子で楽しんだことは忘れられない思い出です。親子で森の「楽校」で成長させていただきました。

今は、森のようちえんのスタッフとして、森の楽しさや癒しを、次世代の親子に伝えたいと思っています。そして今度は娘と孫と親子3世代で森の中でゆっくりとした時を過ごしてみたいと思います。

(VS：江口代里子)

山形県の生物多様性情報

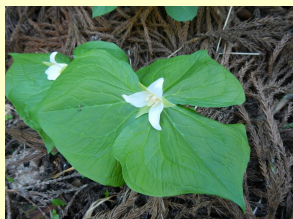
【執筆】植物：横山潤氏 山形大学理学部教授
昆虫：横倉明氏 山形昆虫同好会事務局長

豊かで多様な自然が残されている本県でも、絶滅が心配される野生動植物があります。このコーナーでは、県内で絶滅が心配されている植物や昆虫を紹介します。

レッドリストのカテゴリー

絶滅 (EX) 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧Ⅱ類(VU)
野生絶滅(EW) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 準絶滅危惧(NT)

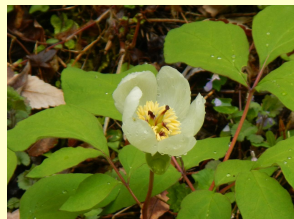
ミヤマエンレイソウ (県：CR 国：対象外)



林内に生育する多年草。県内に広く分布するエンレイソウと似た場所に生育する傾向があり、3枚一組の葉のつき方も共通しているため、花がない時期には区別が難しい。しかし、シロバナエンレイソウと呼ばれることもあることからわかるように、花卉は美

しい白で、花の咲く早春はエンレイソウと容易に区別できる。県内では極めて限られた地域に、わずかに生育が確認されているのみである。花が美しいため栽培目的の採取も本種にとって重要な脅威だが、そもそも生育地が限られているため、自生地の環境がわずかに変化するだけでも絶滅の危機にさらされる可能性がある。

ヤマシャクヤク (県：EN 国：EN)



林内に生育する多年草。近縁のベニバナヤマシャクヤク(県CR、国VU)よりは見かけることの多い植物とはいえ、やはり数の少ない植物である。ベニバナヤマシャクヤクより少し早く、5月ごろに清楚な白い花を一つだけ咲かせる。ベニバナヤマシャクヤクには

失礼だが、草姿全体や茎葉と花のバランスはこちらの方がよく見え、それゆえに栽培目的の採取のターゲットにされやすい。県域全体に広く分布するものの、どこでも個体数が少ないため、持ち出されればその場所では直ちに絶滅する危険がある。かつては薬用植物としても用いられていたようだが、現在では野生種を薬用とすることはほとんどないと聞く。

トモエソウ (県：VU 国：対象外)



湿地に生育する多年草。小型の植物の多い国内のオトギリソウ科にあって、大型で華やかな花を咲かせる本種の存在は際立っている。草丈は1mを超えることもあり、夏に直径5cmほどにもなる淡い黄色の花を咲かせるため、開花期にはよく

目立つ植物である。5枚の花弁の先端が一定方向に曲がることから、「五つ巴」の紋様に見立ててこの名がある。県内には広く分布するものの、いずれの地域でも個体数が少ない。湿地の開発や管理放棄が減少の主な原因とされており、花の時期以外には気がつかれにくいことも減少に拍車をかけている。

スズサイコ (県：VU 国：NT)



草原に生育する多年草。国内のカモメヅル属は名前の通りつる性の種が多いが、本種はその中にあって直立する草である。さらに、他の直立する草になるカモメヅル属植物の中でも、本種は細い葉を持つ点で際立っている。しかし、この性質がイネ科植物の群生する草原での発見を大変難しくしている。さらに、茎の先端に初夏に咲く花も緑味の強い褐色、果実も細長い形状をしているなど、とにかく草原の中で目立たない性質を備えている植物である。スズサイコの属するキョウチクトウ科ガガイモ亜科(旧ガガイモ科)は、雌蕊と雄蕊が癒合した蕊柱と呼ばれる構造を作り、花粉を塊で昆虫に預けて受け渡す特殊な送粉を行う。本種の場合は、管理放棄などによって生育に適している草地が失われていることが、減少の要因として最も大きいと思われる。

スジボソヤマキチョウ (県：VU 国：一)



撮影者 紺野広昭氏

オスは黄色、メスは白色で前翅の先端が尖った独特の翅形をしている。7月頃に姿を表すが、暑い夏の間は活動を休止(夏眠)して気温が下がった9月頃活動を再開する。成虫のまま冬越し早春に食樹のコバノクロウメモドキに産卵する。弱々しく見えるチョウだが成虫になって10ヶ月も生きる生命力の強いチョウである。

減少の著しい種で、新しいレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。減少した原因は不明だが、果樹の農薬説がある。

アマゴイルリトンボ (県：NT 国：一)



撮影者 紺野広昭氏

オスは青色、メスは薄い黄色をしたイトトンボの仲間で、6月下旬から8月に見ることができる。本州の特産種で青森、山形、福島、新潟、長野だけに生息している。幸いなことに山形県では産地が多く、特に月山周辺の湖沼には多産している。羽化間もない個体の休息地や配偶行動の場所として周囲の樹林を利用するため、伐採などによって環境が改変されるとすぐにいなくなってしまう。注意深く見守っていく必要がある。

お問い合わせ

山形県立自然博物館ネイチャーセンター

〒990-0734 山形県西村山郡西川町大字志津字姥ヶ岳 159

TEL 0237-75-2010 / FAX 0237-75-2020 / Mail : bunarin@atlas.plala.or.jp

HP や facebook で随時更新中



HP



facebook

ご案内

- ◆開館期間／5月1日～10月31日
- ◆休館日／月曜日(祝日の場合は翌日)
- ◆ネイチャーセンター開館時間／午前9時～午後5時
- ◆入園料／無料

冬期間い合わせ／NPO法人エコプロ TEL:0237-75-2780 FAX:0237-75-2781 Mail : ecopro@asahi-net.email.ne.jp